



男と女のいきいきコラム 一男女共同参画社会の実現を目指して一 VOL.95

男女共同参画週間

6月23日から29日までの1週間は、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めるための「男女共同参画週間」です。

人口減少や高齢化が進む中で、東日本大震災からの復旧・復興、日本経済の再生など、さまざまな課題に立ち向かっていかなければなりません。そんな中で、男女共同参画の視点を社会のあらゆる場面に活かし、男女それぞれの能力を発揮することが、ますます求められています。例えば、震災からの復旧・復興に女性が参画し、これまでにない女性ならではの視点を加えることや、ワーク・ライフ・バランスにより、男女の働き方や生き方を変えていき、お互いに働きやすい環境をつくるといったことが「元気な日本」を取り戻す鍵となっています。

こうしたことから、今年度の男女共同参画週間は「男女共同参画による日本再生」を

重点とし、分かりやすくアピールできるキヤッチフレーズを2月から3月にかけて内閣府が募集したところ、292点の応募がありました。その中から選ばれた優秀作品をご紹介します。

○最優秀作品

「あなたがいる
わたしがいる
未来がある」

○優秀作品

「共に働き
共に生きる
ニッポンのチカラ」

○優秀作品

「また、男女共同参画週間に合わせ、6月22日に「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」などの啓発活動や、起業・地域活動などにチャレンジすることで輝いている女性・グループの表彰式などが開催されます。

この機会に、職場で、学校で、地域で、家庭で、男女共同参画について考え、話し合ってみましょう。ほんのささいなことでいいのです。自分でできることから実践してみてはいかがでしょうか。

健康まめ知識

食卓の安全・安心ニュース

巨大地震による飲料水・食料不足のリスク

巨大地震が発生すると、電気やガス、水道が止まり(※)、道路が通れなくなるために支援物資も届かず、数日間は飲料水・食料が入手できなくなることが予想されます。

一方、人の体は半分以上が水でできています。水分を摂取しないと、脱力感やめまい、頭痛などの症状が現れ、3日～5日で命を落とすされています。

そうならないために、しっかり災害対策をして、飲料水・食料不足のリスクを低減させましょう。
※東日本大地震で電気、都市ガス、水道の復旧に要した日数は、約3日～20日以上です（地域で大きく異なります）。



巨大地震による飲料水・食料不足から

身を守るためにの鉄則

『自分の命は自分で守る』という気持ちで、各個人が自宅に飲料水と食料を3日分以上（できるだけたくさん）備蓄しましょう。

▷自宅が損傷を受けた場合でも、家屋から備蓄物資を取り出せる場合があります。

▷1人当たり3日分の備蓄をしておきましょう。
(消防庁「わたしの防災サバイバル手帳」より)

- 飲料水(9リットル)
- アルファ米(4～5食分)
- ビスケット(1～2箱)
- 板チョコ(2～3枚)
- 乾パン(1～2缶)
- 缶詰(2～3缶)

最優先は水！
ペットボトル
1本から備蓄を
始めましょう

食卓の安全・安心ニュースより抜粋・加筆
(岐阜県健康福祉部生活衛生課食品安全推進室発行)

6月4日～10日は歯の衛生週間

歯みがきは じょうぶなからだの第一歩